

「農林水産業における男女共同参画促進のための意見交換会」概要

日 時：令和5年9月13日 13時30分～15時

出席者：北陸管内の3農業協同組合の女性理事 5名、農業協同組合の総務課長 1名

○ 農協理事を引き受けた経緯

(理事 A氏)

平成29年2月頃、雪の降る中、農協の部長と課長代理が自宅に訪ねて来て、農協の女性部長の就任を依頼されました。当時、家族を介護していたこともあり、即答できず、家族や介護でお世話になっている方に相談し、理解が得られたので引き受けることとしました。合併前の農協で理事の女性枠で選出され、現在7年目になりました。

(理事 B氏)

私は元農協職員で、退職後から野菜作りを始め、職員時とは違う「野菜を作る喜び」、「採りたて野菜のおいしさ」、「作った野菜を食べてもらう喜び」を感じていました。また、農協の産直部会の女性部員となり、直売所のイベントでつきたて餅の販売や加工品等の対面販売などを行っていて、生産者と消費者だけでなく、生産者と農協との架け橋になることができればいいなと思っていたところ、農協から理事というお話をいただきました。最初はとても不安でしたが、「女性だから気づくこと」、「組合員だから思うこと」、また「元職員だから分かること」など、いろんな思いをつなぐことができれば、地域住民の活性化につながり、農協のお手伝いができるのではないかとの思いで引き受けました。また、女性部の活動としても、かぶらずしや味噌作り体験の実施、梅干しの製造販売の他、地域貢献として公民館で味噌作り教室も行っており、今後も農協と組合員や地域住民の架け橋になればいいなと思っています。

(理事 C氏)

私は、平成28年に地域代表で理事になりました。当農協では、地域代表を旧小学校区単位で3～4集落の中から農協の理事を1人選出しており、前任の理事が辞める際に、私の集落と隣の集落に対して、「誰か理事になりませんか」と相談をしてくれました。夫が集落の区長をやっていたので、私はお手伝いに出ていて、「もし誰もやらないのなら、興味があるので私になってもいいか」と意思表示をしたところ、集落の人たちも応援してくれました。当時、当農協には女性枠の理事が2名いましたが、女性の地域代表は初めてでした。1期3年が経ち、役員改選で地域枠の女性理事が2人増えて女性理事は5人になりました。5人になると色々な意見が出せるようになり、農協の組織の方の協力を得て、様々な活動に取り組むことができました。2期目が過ぎ、女性理事として途中となっている取組みをやり切りたかったので今3期目をやっています。

(理事 D氏)

私の場合、母が家庭菜園をやっていましたが、農家ではなく、農業に縁がありませんでした。平成21年に、夫が新規就農者育成機関に入り、農業を始めることになり、私は農業を手伝うこととしました。ある日、主人が認定農業者だったことからか、私に突然「農協の女性理事にならないか」との話が来て、非常に驚きましたが、JAグループ自体や農協について、勉強してみようと思って、軽い気持ちで引き受けました。農協は地域の支援、農家の支援を幅広く取り組んでいて、とても驚きました。私が理事になった時は女性理事が5人いたので、集まると井戸端会議になります。いろんな問題点を話し合い、また積極的な話がたくさん出てきて、色んなイベントの計画を立てるなど、非常に楽しくやっています。

(理事 E氏)

私は令和元年に理事になり、今2期目、4年目に入りました。私の嫁ぎ先は農家でしたが、義父が数年前に亡くなり米作りをやめました。私たち夫婦は元教員で、退職後に休耕田の一部を畑にして家庭菜園などをやっていたところ、「農協に女性の感覚や考え方を取り入れたい。女性部との円滑な協力も必要である。違う仕事に就いていたからこそ、気づくことを取り入れたいので理事になってほしい」と声をかけていただきました。農業に対して知識も経験も無く不安もありましたが、「これまでの仕事から得た男女共同参画意識や多面的な物事の見方、捉え方、協働体験などを生かす場があるのではないか」、「農協女性部とのパイプ役として何か役立つことはないか」と思い、理事を引き受けました。

初めて理事会に出席したときは、男性が多数を占めていて、農協は男性社会だなと感じました。私が長年勤めた環境は男女の比率はほぼ半々ぐらいだったので、男女が対等に意見を言う場が多かったので、理事会で発言をするには勇気が必要だと思いました。組織は、年代、男女、キャリアなどのバランスが必要だな、と感じました。農業や経営に関する用語などが分からなかったので、事前に配布される資料の内容を調べたり、他の理事やJAの役職員、地区の生産組合長、近所の組合員など皆さんから話を聞いたり、自分から求めていけば、なんとか道は開けるかなと思っているこの頃です。

○農協の女性役員の選出について

(農業協同組合総務課長 F氏)

当農協では、平成9年に初めて女性理事として1名を選出しています。平成9年に選出された女性理事については女性部の方が就任されていたようです。農協合併等により役員数を少なくしたため、女性枠という形はとっていません。理事役員の中で国や県が定めた目標を基に目標パーセントと「何人以上選出する」を決め、現状の役員、地域の総代、組合員にお声掛けをして協力をいただいています。令和4年度の改選では、各集落の方々の中で、女性理事の選出に関する話し合いをしていただ

き、地区代表で出していただいています。また、地区推薦とは別に役員会推薦枠を3名設けており、前回は地区からの推薦で選出された女性理事に2期目を引き続きお願いするなど、女性理事を継続的に選出するため、地区の総代や組合員に声掛けをし、協力と理解をいただいています。

男性目線の古い考え方が多い中、女性理事の方がいることで違う視点が入ることで、こんなこともあるんだな、と気づかされています。

○農協理事に就任してよかったこと、苦労したこと。理事就任後に感じた周囲の変化など

(理事 C氏)

私は、県の農業改良普及員をやっていたので、農業の中における女性の地位が低いことを認識していたので、自分としては違和感なく溶け込んでいるつもりです。当農協では、「女性の意見を取り入れる」、「女性をどうやって組織の中に取り込むか」を前々から検討していて、「女性の正組合員を増やしていこう」、「女性を農協の組織の中で取り入れよう」と取り組み、女性の正組合員比率が平成13年の約9%から10年後の平成23年には約15%に増えました。また、女性大学校を開設し、「女性の農業に興味のある人を呼び込む」、「女性の総代を55名以上選出する」という目標を掲げて下地を作ってくれました。

農協理事に関しても、平成25年に女性枠を設け、女性理事2名を選出しています。そして、平成28年に地域代表として私が加わりました。女性理事は3名いましたが、男性理事の数が多いため、質問や意見を述べるには、勇気が必要でした。令和元年に2期目となり、女性枠の2人が改選されまして、交替した2名と私を含む地域代表3名で女性理事は5名となりました。19人中、女性理事が3名から5名に増えたので、理事会でも、女性理事の発言が多くなったと感じ、「数は力」だと思いました。また、「農協の支店行事として行っている直売市を農協本店でも開きたい」と支店長や組合長に相談したところ、関係者の理解が得られて開くことができました。女性理事が活動しやすい雰囲気を作ってくれており、私たちとしてはやりやすく、楽しくやらせてもらっています。

(理事 D氏)

私自身は、男性社会ということには意識はしてなくて、自分が意見を言いたいことは、きっちり言うし、質問します。夫の所属している部会に夫の代わりに何回か出席していて、女性が私1人ということも時々ありますが、「女性として」ではなく「自分として」思っていることを発言してきました。自分の意見をしっかり言うということが大事だと思います。

(理事 E氏)

理事に就任した当初は「経営全てを網羅しなければいけない」という思いがあり、わからないことが多く「無理だ」と思いすごく不安でした。やっているうちに「経営を全て網羅するのではなく、自分ができる分野を見つけて一生懸命追求して行く」、「女性部とのパイプ役になろう」と思うよう

になりました。それで、農協女性部の会合や活動などに参加し、一緒に行動して、そこで呟かれる言葉を聞こうと思いました。理事会では、女性部の会員の一生懸命な様子や、現場での声・意見を話しています。逆に、女性部での会合では、理事会での働きとか意見を伝えるようにしています。互いの活動が見えることで、組織の一体化を強くできるかと思います。楽しく活動できることはとても大事なので、パイプ役として自分なりに努力していこうと思います。

理事になって良かったことは、地区の話し合いへの参加が増えたことです。直接生産者の生の声を聞き、「農業への希望、期待」を感じる反面、「後継者不足の問題」や「収入源の心配」など、抱える課題も多くあるように感じています。私は農業をしたことがない理事ですが、顔を合わす回数を増やすことで少しずつ気持ちが通じるように思い、最近は嬉しさを感じています。

また、農協の職員の働き方やメンタルケアに関心があります。男女関係なく若い職員の可能性が十分に活かされているか、育児休暇や休業がしっかり取れるような環境にあるのか、ハラスメントの問題が生じていないかなど、これは女性視点というよりも人としての視点になりますが、今の時代に必要な知識を敏感に持って、組織のトップ層がしっかり正しく受け止めて考えていかなければならないと思います。多様性がますます広がる中で、働きやすい楽しい職場づくりを組織全体が常に意識するよう、理事として積極的に働きかけていきたいと思っています。

(理事 A氏)

理事として、農協の運営側の立場も分かるようになり、「今、組合員が何を求めているか」を組合員の気持ちも汲み取った発言できるようになって、やりがいを感じています。

私も野菜を作っているのですが、今日も直売所に出荷してきましたが、店員の挨拶も笑顔もちょっと足りないと感じました。農協ファンをいっぱい増やして、もっともっと農協を行きやすい所にしていきたいと思います。

(理事 B氏)

子育て中や家族を介護している人については、周囲の人が理解を示すことが必要だと思います。

○これからやってみたい活動、これから役員になる女性の方々に向けたアドバイス、男女共同参画社会推進のための提案

(理事 A氏)

若い女性にどんどんと農協に足を運んでほしい。

(理事 B氏)

女性ならではの心遣いが大切かと思います。役員ひとりひとりが助け合い、仲間と共に支え合って人のつながりを大切にしたいと思います。

(理事 C氏)

当農協では准組合員の若い家族・世帯の人たちをいかに農協に惹きつけるかという活動を今年から取り組み始めています。まず、各支店の地域活性化委員に女性が参加してもらいたい。女性理事の中には、地域活性化委員と協力して地区のリーダー的な役割を担って産直市を盛りあげている方もいます。当農協に対しては、女性理事が4人5人いるとパワーがあると認識され、女性理事の確保に関してこれからも取り組んでくれることに期待しています

(理事 D氏)

私たちの任期はあと2年ですが、やりたい活動や計画したいことがたくさんありますが、全部はできないので、活動を絞って行っています。今年は准組合員の親子を対象としたミニトマトの栽培講習会を行い、栽培のアドバイス、採れたミニトマトを使った料理教室まで行いました。私たちがこうした活動を楽しく、しっかり取り組んでいる姿を見て、これから理事になるも「私もやってみよう」という気持ちになるかと思っています。

(理事 C氏)

農協の直売所は周りのスーパーと比較すると特徴がありません。直売所を盛り上げるため、今話のあったミニトマトの教室を企画しました。参加者がなかなか集まらなくて各支店や総務のみなさんに頑張ってもらい、参加者を集めてくれました。新しいことをはじめようとする関係者の協力をいかに取り込むかが大事だと思いました。

(理事 E氏)

これからの農協は、米作りだけではなくて、例えば介護とか保育、終活、人やペットの葬儀関係から墓掃除、墓じまい、農産物を使った食品の開発とか食育の分野、それから野菜を使った料理教室などのカルチャー教室、などまだまだ沢山できることがあると思います。理事や経営のトップが、いかに時代に必要なものを先取りして見つけるかが、農協のこれからの課題だと思っています。農協はこういった活動に取り組んでいるということをもっとPRして、「農協で働きたい」と思う人、まず職員を増やすことが必要だと思っています。

農協の理事は自ら立候補する方もいますが、推薦されて、肩を押されて、引き受けるケースがまだ多いと思っています。私の場合は最初から「何かしなくちゃいけない」と気負いましたが、少しずつ地域とか周りのことに目を向けて始めたらいいと思います。最初のうちは、理事会でどんどん発言する必要はないので、人の話を聞き、周りの様子を知ること、そのうちに気づいたことや、もっと知りたいこと、それから違和感があることなどを、勇気を持って話すということが大事だと思っています。話さないと分からないこともあり、ひとつずつステップを踏んで、回数を重ねて発言していくとだんだん場に慣れてきます。人の話を聞いて、自分の言いたいことを話すことで、話し合いのスタイルができていくと思います。そういう人たちが少しずつ増えて、女性理事が増えていけば、必ず男女

共同参画の推進につながるし、女性の社会参画の拡大につながっていくと思います。

私は、男女関係なくしゃべるタイプの人間なので、「女性の視点」とかいわれると男女共同参画とだんだん離れていくような気がします。「女性だから細やかな感性を持っている」とは限らないし、男性でも細やかな方がたくさんいます。経営手腕をバリバリ発揮した方が良い女性理事もいます。農協のトップが男女関係なく、その人の個性や能力、可能性を発見して、公平な環境、それから評価基準を持つことです。

(農業協同組合総務課長 F氏)

現在、女性理事をされている方々が、ご自身の活動を、農協や地域の農業、地域全体に対して発信し、ご自身の経験をつないでいただきたい。共感された女性の皆さんが自ら理事になりたいということになれば、理想的です。

(理事 C氏)

農協として、女性の理事を増やすためには、段階を踏まなければいけないと思っています。

当農協では、「女性大学の開設」、「女性の正組合員・准組合員の加入促進」、「理事の女性枠」、「支店ごとの活性化委員への女性の参加促進」を積極的に取り組んできました。組合長自ら「地域枠から女性をこれだけ出したい」と話しており、農協の経営陣の方々の理解と協力があるからこそ、女性の枠が増えて、そして女性理事が増えました。仲間にも恵まれて、理事としていろんなことをやらせてもらい、楽しくて、とてもやりがいがあります。

(理事 A氏)

当農協の支店運営委員は男性が8割ぐらいです。支店委員の男女比が半々くらいになれば、女性の役員、理事、総代が増えてくると思います。今、他の多くの団体でも女性登用に一生懸命になっているので、農協もそれに負けずと取り組んでほしいと思います。

(農政局 局次長)

いきなり女性を引っぱり出して上に置こうとしても、無理があります。きちんと農協のあらゆる階層の活動の中に、女性が声を出して行ける場所を増やしていけば、分かりやすくなると思います。農協には、たくさんの女性職員がいますが、幹部・役員クラスには女性がかかなり少ないという状況があります。女性は公私でとても忙しいので、残業が多いのであれば、女性登用しようとしても断られてしまいます。勤務時間内にきちんと仕事を終わらせるとか、女子トイレが少ない現状を見直すとか、女性の働きやすい環境を整えないといけないと思っています。

(理事 B氏)

子育て世代の方、家族の介護をしている人は、周りの人が受け入れて、理解してほしいと思います。また、産休で休んでいた職員が戻ってきた際の短時間勤務や、男性の育児休暇の取得も推奨されていないように見えます。

(理事 E氏)

来客がきた時にお茶出しするのが女性の仕事になっていませんか。男性がやろうとすると「いや、女性の方に」とは、おかしい話だと思います。

「女性用の休憩場所が確保されているか」、「トイレはきれいな状態か」など、ほんのささいなことでも結構引っかかる人はいると思います。また、自分が発した何気ない一言で「相手が傷つかないか、ハラスメントにならないか」を配慮されているかと思いますが、男女という問題ではなくて、人としての言葉遣い、相手に対する尊敬を持ちながら、みんなが接していくことで、女性という意識がなくなるかもしれません。

(農政局 地方参事官)

皆様方の農協に対する強い思いとパワーを感じました。私の前任地の話ですが、農協の組合長から「女性部の部長まではやってくれるけど、理事までなかなか引き受けてくれない」という話をお聞きしていたので、今日ご出席いただいた理事の皆さんの楽しそうな姿を発信していただくことがいちばん効果的だと思います。

○農業委員、土地改良区役員に関して

(理事 C氏)

私は、生産組合長をやっていて、「土地改良関係の役員に女性を登用したいので女性の意見をお聞きしたい」と意見を求められたことがありました。農協は、女性部があり、総代や理事に女性枠を設けるなどの、一段一段上るような形で女性が参加する下地を作ってきました。土地改良区にも同じように女性の意見が言えるような雰囲気があればいいと思います。土地改良区の役員の依頼に関しては、知識がない人をいきなり持って来たとしても、話が分からず困ってしまうと思います。段階を踏んで準備し、女性が参加できる組織、下地を作ってほしいと感じています。